特定非営利活動法人

# 岐阜環境カウンセラー協議会
# 会報Vol.26

2020年2月1日発行

この美しい自然を守ることが、人類を救う！！

## 目次・概要


● ～巻頭言～ 管見妄語 – Ⅱ 「意を伝えるということ、、、、」 ･････････････ P2

岐阜環境カウンセラー協議会　理事長　堀江　孝男

昨年末、スペイン・マドリードで開催されたCOP25開催時の、我が国の政府担当者と、その後の、若い担当大臣らのお粗末な対応を観て、地球温暖化対策に“前向きな取り組みを発揮できない国”に対して、我が国は不名誉な「化石賞」をうけたのである。

「事実を正確に確認していない、それらの不真面目な姿勢と見苦しい対応」に、環境改善活動&指導を目指す者として、忸怩たる思いと共に憤慨し「目を覚まさんかい!」と檄を飛ばさし、「もっと勉強をして真面目に取り組め!!」と、強く忠告したいと心底思った。

● エコアクション２１　と　SDGs ･････････････････････････････････ P7

岐阜環境カウンセラー協議会　副理事長　矢野　民朗

2030年に向けて世界が合意した持続可能な開発目標“SDGｓ”への取組みは何か難しそうだな・・・等と考えないで下さい。現在取組んでいるEA21の環境経営目標とSDGsの各ゴールとを紐付けしてみると、既に多くのゴールに関連した活動をしていることに気づくことになるでしょう。

● ～第14回エコアクション21全国交流研修大会inくらしき～に参加して
･････････････････････････････････ P9

岐阜環境カウンセラー協議会　理事　梶田　弘一

今年で、14回を数える「エコアクション21全国交流研修大会inくらしき」が、11月1日、2日、岡山県倉敷市で開催され、審査員として14回目の参加を果たしました。その14回の中で、今回、「これぞ、全国交流研修会」という印象の強い大会でした。

# ～巻頭言～

## 管見妄語 － Ⅱ　「意を伝えるということ、、、、」

岐阜環境カウンセラー協議会
理事長　堀江　孝男

右の写真は、昨年の夏前に出かけたスペイン最南端の町、「マラガ」のホテルの窓から観た市街一望である。この国のこの時期、「何となく気怠さを感じさせる」頃らしいが、写真にまで現れ霞んで観える様だ。

スペイン国の最下端に位置する街で、地中海を挟んで、その下にはアフリカ大陸があり、ジブラルタル(UK)の海峡を越えれば、モロッコ・チュジニアらの国々にも足を延ばしたくなる、温暖なのんびりとした街の様だ。ホテルの窓から見える景色の中で、妙に気になる樹木があった。

「あの、紫色の花をつける樹は何と云う木かな～」、「ジャカランダの木よ!」「ジャカランダ?」初めての名前であり、私にはそのジャカランダの花が妙に印象的に見えた。ジャカランダ（jacaranda）の和名は「紫雲木」、アルゼンチンなど熱帯のアフリカ原産とする、珍しい樹木であり、「世界の三大花木」と云われる。東海地方では見かけないが、我が国では、雲仙や日南市らの温暖な地方にジャカランダの花が咲く小径、「ジャカランダ通り」があると後から知った。我が国の春に咲く桜の花は、暖かさと共に「穏やかに春の到来を告げる、花の代表」であるが、スペインで観たジャカランダの花は、「名誉」とか「栄光」いう花言葉が付けられている。

スペインの大地にやって来て住み着いた、他国人であるイスラム人が普及させたイスラム教を、それを善しとせぬ、スペイン人が、全土をキリスト教徒に改教し、八世紀から始めたレコンキスタ(国土回帰運動)を、十五世紀末までかけて回復させ国勢と都市は大きく栄えた。

しかし、「スペインが誇った無敵艦隊の敗北」（1588 年）以降、恰も下り坂を転がる様に駆け落ち、それによって国の誇りを失った。この、余りにも惨めな近代スペインの歴史とその様相に、余り良いイメージを持っていなかった私も、あの「ジャカランダの花」の凛とした美しさに、スペインへのイメージが少し変わった。

加えて、ジャカランダの花と共に、広大な「葡萄畑」が延々と続く大地を車窓から眺め、多分この国は広い国土を持ち、人と環境に優しい国なのだろう、、、」と思う様になった。

かつてこの国・スペインには業務を通じて 3 度ほど訪ねて来ており、この国に対し「陽気ながら自己主張が強く、一方では喜怒哀楽の感情の波が激しい、、、」程度の予備知識はあり、大きくは間違っていないものの、私の心の中で「別の何かがあり、新しく変わりつつある」との思いも芽生えるスペインの旅であった。

そんなスペインで、昨年末、私達「環境カウンセラー」に大きな影響を与える「COP25 (第 25 回国連気候変動枠組条約締約国会議)」が、南米チリが開催断念した為、急遽スペインが代わり、首都マドリードで 12 月 2 日～13 日に開催された。

「気候に正義を」「地球を守ろう」を、COP25 開幕を目前にした 11 月 29 日、若者達が呼びかけた「グローバル気候マーチ」は世界の 158 カ国の 2400 都市で、気候変動の影響を受けるのは自分達だ、と云う、「若い世代の声」は切実身を帯びていた様だ。

国連環境計画（UNEP）が同 26 日に公表した報告書は、二酸化炭素（$CO_2$）など温室効果ガスの排出が今のペースで続けば、今世紀末までの世界の平均気温は産業革命前より 3.4～3.9 度上昇することなどを指摘し、「破壊的な影響をもたらす」と警告した。

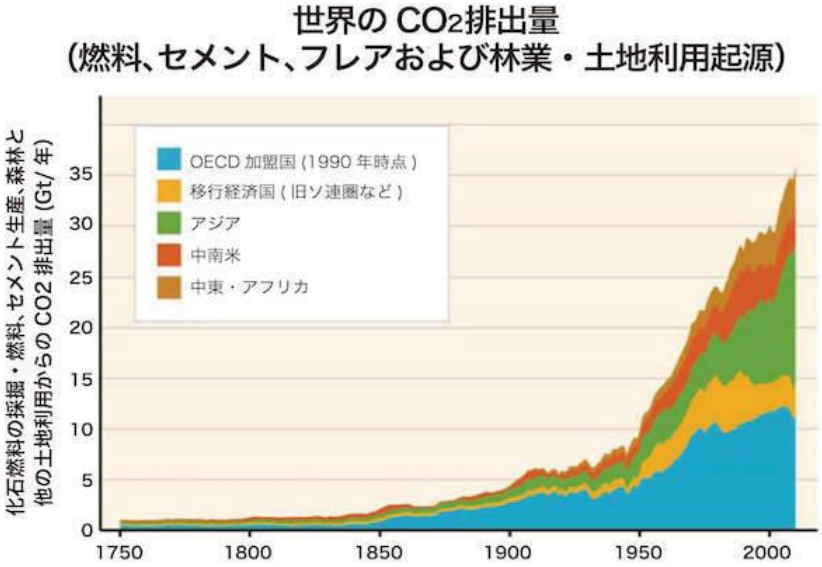
パリ協定は気温上昇を 2 度未満、できれば 1.5 度に抑えることを目指したが現状では各国が国連に提出している排出削減目標をたとえ達成しても、気温上昇を 3.2 度に抑えられないと指摘している。それは、1.5 度でも、海面上昇、豪雨や熱波、水不足、山林火災などのリスクが世界的に高まるとされるが、約 3 度上昇となれば、危機的な事態を引き起こすことは必須であり、UNEP の報告書は 1.5 度に抑えるには、現在毎年 1.5%程度増えている排出量を 7.6%削減することが必要であると強く求めている。

一方で、巷の多くの大人の間で、「世界の気温上昇をパリ協定で定められた 2℃でなく、3～4℃でも何とかなる、、」との思いが未だある様だが、これは全く間違った「恐ろしい誤解」であり、失敬な表現をすれば「無知のなせる誤解」であり、馬鹿げた「人生の賭けごと」だと断言したい。

現ロシアの大統領は以前の要人時代に、「温暖化が進めば、不凍港が無くなり誠に喜ばしい!」と述べたと云うが、「無知」とは云え極めて勝手で横着な発言だと思う。現に現在オーストラリアのニューサウスウェール州では、昨年末から 90 ヶ所で山火事が発生し、現在も約 40 ヶ所で延焼が続いていると報道されており、その原因は温暖化による極端な乾燥気候であると推測され、火災発生から 1 ヶ月ほど経過するも未だ収束の目処が立っていない状況と云う(2020・1・16)。

我々の経済活動及び生態系は、小さな気温変化に対しては一定の耐性を持つとされるが、ある閾値(いきち:特定の作用因子が、ある反応を引き起こすのに必要な最小、最大の値ギリギリ値=条件分岐の境目)に達すると、気温の変化に対して被害は加速的に大きくなることは明確なことである。極めて深刻な状況に至る地球温暖化を真剣に考えられないこの人達は、「被害は加速的に大きくなる」という理論が判っておらず、一度厳寒や旱魃が発生すれば、農作物らの収穫は重大な被害が及ぶことが理解できていない人達だと思う。

ふっと「今世紀末までの世界の平均気温は、産業革命前より 3.4～3.9℃上昇すると明確に指摘し、「破壊的な影響を齎すと警告」の指摘の発想は、いつからだったのかと調べたが、それは 200 年を遡る時代に至った。



出典)IPCC第5次評価報告書 WGIII Figre TS.2

「地球の大気が、温暖な表層の環境を保つ上で、重要な役割を担っている」ことを指摘し、更に、熱の伝わり方を記述する方程式を導き出し、その解法に「フーリエ級数解析という手法を考案したのは、フランスの数学者であった。

理工系の方であれば思い出されると推察するが、それは、あの難解なフーリエ級数を考案した「ジョセフ・フーリエ(1768～1830 年)」であり、「地球に到達する太陽からの熱エネルギーと、地球から出て行くエネルギーを計算することで、地球表層には熱を蓄熱システムがあるはずだと考えたのである。

これが、大気による温室効果作用についての初めての、記述とされている。 ジョセフ・フーリエが「太陽からの熱エネルギーと、地球から出て行くエネルギーを計算して(1768～1830 年)から 70 年ほどが経った後、スウェーデン人でノーベル化学賞を受賞した、スヴアンテ・アレニウス(1859～1927 年)も「二酸化炭素の温室効果ガスとしての役割に関する論文を発表」ており、氷河がヨーロッパを覆っており、氷河を生み出した寒冷な気候は大気中の二酸化炭素濃度の低下によって齎された」と結論付けていたのだ。

上の図から明快に判るが、スヴアンテ・アレニウス氏が「二酸化炭素の温室効果ガスとしての役割に関する論文を発表」した 1900 年頃から CO2 の排出量は確実に増加し始めたのである。

イギリスでの産業革命では、既に 16 世紀頃から鉄製品に対する需要が高まっていた。当時は木炭を用いていたが、1750 年ごろからコークス製鉄法はイギリス全土に普及したと云われる。「霧のロンドン」のフレーズは「何となくロマンチック」なイメージを発想させるが、この「霧」は石炭を燃やした時に発生する「黒いスモッグ」であり、1837～1901 年の産業革命による経済の発展が成熟に達したイギリス帝国の絶頂期であると見なされている。

この霧と煙の微粒子が混じったものが滞留する汚染が発生し、呼吸器疾患などの健康被害が発生したのである。1905 年に“スモッグ”の語が登場し、この用語はロンドンだけではなく世各地の都市などで発生していた煙と霧の混じった汚染された大気に対して用いられる様になったのである。

その真因は、産業革命が起きる前の二酸化炭素濃度は平均 278ppm であった様だが、200 年余りの間に、地球の二酸化炭素濃度は 405.5ppm となったことに起因するのである。

昨年秋の台風 15 号、台風 19 号は各地に甚大な被害をもたらした。台風の勢力強大化の原因は地球温暖化による海水温度の上昇であり、海面水温が高いと台風に　水蒸気が大量に供給されエネルギーが増す。それが最大風速 60mを超える暴風となり、1 ヶ月分を超える降雨量となると想定され、台風 15 号の風は想定外と云われる。これらは地球温暖化による気圧配置の変化が、台風の進路にも影響を与え直撃したのであるが、温暖化の特異な問題は「長い時間の遅れ!」と云う、極めて厄介な課題を持つことだろう。例えば、物造りの会社が「現在のエネルギーを、環境に優しいシステムに替えよう!!」と立案　計画を建てても、実際に「エネルギー・システムが大きく変わる迄には」、「プロジェクトの立案」、「既得権益団体との調停」、「融資と提案と説得」、「地域住民との合意形成」、「新たな設備　の立案」・「装置の建設」、これらのことは、数年、場合によっては十数年の期間を有することも　あり、この様な実体験を持たれる方も多いと推察するが、これは「エネルギー・システム」を、化石燃料から「再生エネルギー」に変更し、大気に排出される二酸化炭素が減り始めても、これまでに大気中に排出された二酸化炭素の寿命は、数十年から数百年に及ぶことを意味する。

例えば、たった今、世界中の二酸化炭素排出量をゼロにしたとしても、数十年は温暖化が進んでしまうことを意味し、正に「温暖化は急に止まらない」のである」、換言すれば、気候変動問題は時間との闘いなのである。この事実をどれだけの人達が理解しているのか?

無限に時間があれば、少しずつ「エネルギー・システム」や「教育や意識啓発」を通して、周りの人々に「環境に対する考え方」や、「価値観」を変え行動を変えてゆくこともできるだろう、しかし、それでは遅いのである。

それは昨年末、スペイン・マドリードで開催された COP25 開催時の、我が国の政府担当者と、その後の、若い担当大臣らのお粗末な対応を観て、地球温暖化対策に“前向きな取り組みを発揮できない国”に対して、我が国は不名誉な「化石賞」をうけたのである。

「事実を正確に確認していない、それらの不真面目な姿勢と見苦しい対応」に、環境改善活動&指導を目指す者として、忸怩たる思いと共に憤慨し「目を覚まさんかい!」と檄を飛ばさし、「もっと勉強をして真面目に取り組め!!」と、強く忠告したいと心底思った。

温室ガス増加の一途

17年排出最多「失われた10年」

国連、脱石炭を提言

2008年から17年までの10年間に世界の温室効果ガス排出量がほぼ一貫して増え続け、国連環境計画（UNEP）が「失われた10年だった」とこの間の地球温暖化政策を厳しく総括する報告書をまとめていたことが12日分かった。各国の削減対策は不十分としており、18年も排出量は増加。パリ協定の温暖化抑制目標を達成するには石炭火力発電所の新設中止など思い切った対策が急務だと指摘している。

【関連記事2面に】

世界の温室効果ガス排出量

600億トン
500
400
300
2000年 02 04 06 08 10 12 14 16 17
(UNEPによる)

08年以降分析

リオで予測された排出の伸びとほぼ等しかった。18年はさらに増えて553億トンに上ったとみられている。

それでも各国政府が再生可能エネルギーや省エネの大幅拡大、森林破壊の防止や植林などの対策を大幅に強化すれば「産業革命以来の気温上昇を2度より十分低く、1・5度になるよう努力する」とのパリ協定の目標達成はまだ不可能ではないと分析した。

一方で現在、建設中の石炭火力発電所が全て稼働すると気温上昇を1・5度に抑えることは不可能で、新設をやめ、既存の発電所も徐々に減らすことが目標達成に欠かせないと指摘した。

UNEPは08年から毎年、温暖化の被害防止に必要な温室効果ガスの削減量と実際の排出状況に関する調査報告をまとめている。今回、10年間の変化を改めて分析した。

国内で石炭火力発電所の新設を進め、海外の建設支援も続ける日本に方針転換を求める圧力がさらに強まりそうだ。

報告書によると、UNEPが世界の排出量の分析を始めた08年から17年までに世界の温室効果ガス排出量は平均で年1・6%増加し、17年には過去最高の535億トンに達した。約10年前に「目立った削減対策が取られず、成り行きのまま排出量が増える」とのシナ

**我が国へ「石炭火力発電への抗議」**
**が認められている岐阜新聞**
**令和 2 年 1 月 13 日**

環境カウンセラーとして、環境保全活動を 20 年超続けてきたが、我が国の地球環境への甘い取り組み姿勢や、地方自治体らの取り組み姿勢を批判する前に、先ずはあのスペインの「ジャカランダの花の如く“凛として清潔”そして、真摯な姿勢で「環境カウンセラー」の責務を全うせねばと心から思うのである。

この正月 2 日の朝、「今日の温度は 41 年振りの 17.3℃だって、有難いね～春が来たみたい」の言葉に「そうだね～」と相槌を打ったが、本当にこれで良いのかと首を傾げた。

孫たちが大人になる 20 年も経った頃の正月は、初夏の様な暑さになっているかも知れないと、思ったが思い過ぎか? (その頃の状況を確認する自信はないが、気になって仕方がない)

一方で、限りある天命の中で新たな試みをも試行するべく、もう少し頑張らねばと思いつつも細いパイプの先から見る様な狭い視野で、「世の中を垣間見るが如く駄弁を弄し」、よわいごと(齢事)」を認めてしまった。

まさしく「管見妄語」となったが、「今の、この穏やかなこの環境が、いつまでも続いて欲しいの“意が伝われば”」との願いを込めて認めた次第である。　(2020・1・16　T・H)

## ～出展のご案内～

NPO 法人　岐阜環境カウンセラー協議会

皆様のご来場をお待ちしております

- 多治見市環境フェア
  開催日時　2020 年 2 月 16 日(日曜日)　9:30～15:30
  会　場　ヤマカまなびパーク(多治見市豊岡町 1-55)
- 第 20 回　大垣環境市民フェスティバル
  開催日時　2020 年 3 月 14 日(土)　9:30～16:00
  会　場　ソフトピアジャパンセンタービル及びその周辺(大垣市加賀野 4 丁目 1 番地 7)

# エコアクション２１　と　SDGs

岐阜環境カウンセラー協議会　副理事長
エコアクション 21 審査員
矢野　民朗

エコアクション２１は、企業の更なる成長を支援する環境経営マネジメントシステムです。持続可能な経済社会の構築を目指すことを使命として、環境省が策定した環境経営システムの認証・登録制度で、現在約 7,800 の事業者が認証・登録しています。

皆さん、既にご存知の下記のポスターは SDGs(Sustainable Development Goals）です。これは、2030 年に向けて世界が合意した持続可能な開発目標です。簡単にまとめると

- **2015 年に国連サミットで決まった目標**
- **193 カ国が参加している目標**
- **目標は 2030 年に達成予定**
- **17 の目標と 169 のターゲット　で構成されています。**　　（出典：国際連合広報局）

## 17 の目標を順番に並べると

1.貧困をなくそう　2.飢餓をゼロに　3.全ての人に健康と福祉を　4.質の高い教育をみんなに
5.ジェンダー平等を実現　6.安全な水とトイレを世界中に
7.エネルギーをみんなに そしてクリーンに　8.働きがいも　経済成長も
9.産業と技術革新の基盤をつくろう　10.人や国の不平等をなくそう
11.住み続けられるまちづくりを　12.つくる責任　つかう責任　13.気候変動に具体的な対策を
14.海の豊かさを守ろう　15.陸の豊かさも守ろう　16.平和と公正をすべての人に
17.パートナーシップで目標を達成しよう

この 17 のゴール（なりたい姿）とゴールを達成するために 169 のターゲット（具体的な達成手段）が設定（記載略）されています。

## 例えば：気候変動に具体的な対策をでは

気候変動に関しては、「地球温暖化」が最も身近に感じられる話題ではないでしょうか。

事実、温室効果ガスの排出量は依然として増加傾向であり、全世界で海面上昇や異常気象、そして平均気温の上昇などが問題となっています。またそれ以外にも、地震や台風、津波等の自然災害による被害も大きく、災害対策は急務となっています。

エコアクション 21 全般の取組みが、温室効果ガス発生を抑制し環境負荷の削減につながります。

このことは EA21 の取組み事業者は全てが既にこの 13 番目のゴールに取組んでいる訳です。

## 取組み例：

・温室効果ガス排出量の把握と削減の取組み（電気使用量削減、燃料使用量削減等）
・製造工程改善による無駄なエネルギーの削減（工数削減等）
・業務用冷凍空調機の適切な管理（フロン排出抑制法に係る簡易点検等）　があります。

また、防災関連等の活動は、11、13、14、15、16、17 にもつながると考えても良いでしょう。

## あなたの“会社”は、既にＳＤＧｓに取組んでいますよ！

“SDGs への取組みは何か難しそうだな”等と考えないで下さい。この様にして、現在取組んでいる EA21 の環境経営目標と SDGs の各ゴールとを紐付けしてみると、既に多くのゴールに関連した活動をしていることに気づくことになるでしょう。

## あなた“個人”も、既に SDGs に取組んでいますよ！

EA21 の環境経営目標だけではなく、個人の生活の中でも社会の一員として「家庭」や「行動」で心掛けていることを振り返ってみると、既に多くのゴールに関連した活動をしていることに気がつくことになるでしょう。このように考えてみると、私たちの生活に身近な問題も、SDGs に当てはまることが多いことが見えてくるとなんだか嬉しくなりますね。

## SDGs は普遍的な目標として「誰も置き去りにしない」という約束を掲げています。

なにかの目標達成の裏で、泣いている人がいないようにと、配慮する気持ちが込められている訳です。「6. 安全な水とトイレを世界中に」などは、日本で問題になることはほとんどありませんが、世界の貧困地域では、とても重要な課題として報道で知ることも多くあります。日本は先進国として、困っている国を助けなければいけない立場にあることに気が付くことも必要ではないでしょうか。

## ＥＡ２１環境経営目標ではこのＳＤＧｓとの紐付けを試みることもお薦めします。

# ～第 14 回エコアクション 21 全国交流研修大会 in くらしき～ に参加して

岐阜環境カウンセラー協議会　理事
エコアクション 21 審査員
梶田　弘一

今年で、14 回を数える「エコアクション 21 全国交流研修大会 in くらしき」が、11 月 1 日、2 日、岡山県倉敷市で開催され、審査員として 14 回目の参加を果たしました。その 14 回の中で、今回、「これぞ、全国交流研修会」という印象の強い大会でした。

なぜか？・・・「本業の発展につなげ、経営者から喜ばれる審査員となるための対話術」を、主テーマに据えた構成によると思います。審査員として必須の条件である「対話術」を正面に置き、その内容も実に具体的で、中でも「ビジョナリー・コーチング」は、即、審査で利用できるもので、大会後の審査で、早速、試し、確かめることができました。

倉敷アイビースクエア
（アイビーとは、和名“つた”）

これに集約されるように今大会は実のあるものでしたが、他にも講演 1 では、環境省総合環境政策統括官　中井徳太郎氏による「SDG s と地域循環共生圏」と題する講話があり、環境、経済、社会の調和が前面に押し出されるとともに民間、金融のかかわりと地域の SDG s として地域循環共生圏構想が紹介され、これからの国、地域の在りように大きなヒントとなるものでした。

また、講演 2 では、「SDG s が変える日本のビジネスーESG 投資と企業の環境戦略―」と題して、株式会社日本政策投資銀行執行役員　竹ノ原啓介氏から話題提供があり、もう、日本企業の約 70%が「企業価値」という側面から SDG s を捉えていること、4 割の企業がすでに対応し始めていること、ESG 投資が世界の潮流である一方、地方創生 SDG s 金融が自律的好循環を生み、地域循環共生圏構想とも関わってくることなどが示されました。

会場風景

休憩 10 分を挟んだパネルディスカッションは、環境省総合環境政策官　中井徳太郎氏、地元両備ホールディングス株式会社取締役副会長　松田　久氏、倉敷木材株式会社代表取締役社長　大久保陽平氏と全国大手の株式会社明電舎執行役員　古田　隆氏、エコアクション 21 中央事務局事務局長　森下　研氏をパネリスト、株式会社日本政策投資銀行執行役員をコーディネーターに「SDG s が拓く 100 年企業への道」と題し、それぞれの取組現状、将来への考え等が語られました。事業者の方々はともにエコアクション 21 に取り組む企業として、これからのた

め、一層、その取り組みを強めたいとの決意が感じられました。又、大手企業にあっては、そのサプライヤー100 社超に対するエコアクション 21 導入支援に力を注いでいることが報告され、先のガイドライン改訂時、中央事務局の説明であったサプライチェーン重視の考え方が裏打ちされた感がありました。時代の流れというか、地域の事業者においても、SDG s にコミットする経営の必要性が、理解されていることも明らかになったパネルディスカッションでした。

このパネルディスカッションまでで、一般公開部分のスケジュールが終了し、20 分の休憩後、審査員研修に入り、その内容は冒頭で記したとおりです。

もう少し、付け加えれば、今までのコンサルティングの在りようが明快に変わった「コーチング」という概念です。コーチングとは、「適切な質問によって、クライアントの行動を促し、その人の目的達成を支援するコミュニケーション・スキル」と定義し、「教えるから応援する」へ、そして、「快を与える対話術」が大切と説いていました。具体的には、こちらができることを薦めるのではなく、「困りごと」を聞くことが重要、「すごいですね、それだけ、順調なら悩みはないでしょうね。」と前振りし、相手の言葉を待つ姿勢も有効、そして、相手の「ごちゃごちゃ話」を言語化（翻訳）し、状況を共有化すること、逆に沈黙の時間も利用価値があることなど、実務において有効な話題が随所に盛り込まれていました。これだけでは、十分、理解するのには難しいと思いますが、これ以上詳しく報告するためには、小生自身、この研修で得た知識を活かし、実務体験した上で、次の機会に報告したいと思います。この研修の目新しさにもなりますが、「今年中に、10 人以上とビジョナリー・コーチングをやってみよう‼」と、約束させられたことの実践も含めての内容となりますので、ご期待ください。

倉敷美観地区街並み

最後に、大会全体について、恒例のエクスカーションも企画されており、小生は「倉敷美観地区＆大原美術館まるっと見学」コースに参加しました。随所に倉敷が散りばめられており、この点でも満足な内容でした。倉敷市をはじめ、地域のみなさんの地域を愛する姿勢、想いが街並みのあちこちに込められている感も強くしました。案内していただいたボランティアガイドさんの明快な説明も大会の締めくくりに相応しいものとなりました。これらの地域の取り組みは、「地域循環共生圏」を考える上でも、良いヒントになりました。

このように、今大会は内容、企画とも申し分なく、100 点満点中 95 点に値する大成功であったと思うのは小生のみでしょうか。今大会の全体を取りまとめられた公益財団法人岡山県環境保全事業団のみなさまには心よりお礼申し上げます。

令和元年 12 月 28 日

・特定非営利活動法人　岐阜環境カウンセラー協議会
〒507-0001　岐阜県多治見市小名田町小滝 5 番地の 301(梶田宅)
TEL/FAX　0572-51-5500
E-mail:gifu-ec@ob.aitai.ne.jp
URL:http://www.gifu-ec.jp
窓口担当者　：　梶田　弘一　、鈴木　敬彦